

○再整備・再配置の方向性

東金子地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。	1 東金子公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 東金子小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに存在するため、多くの児童が通学しやすい。 【デメリット】 ・新久小学校に通学している金子（根岸）地区の児童への配慮が必要となる。 ・敷地の拡張が難しい。
		2 新久小学校を活用する案	【メリット】 ・保育所が至近距離にあるため、連携を図りやすい。 【デメリット】 ・人口の少ない地区の端部に位置するため、通学距離が大幅に延びる児童が出てくる。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。
	複合化しない場合の想定		【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 東金子と新久学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 東金子中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・新久小学校区の地区区分と通学区を合わせるための調整が必要となる。
保育所	現在の場所での建替えの他、移転についても検討する。なお、移転先については、小学校隣接地や公共施設跡地を含めて検討する。	1 現地での建替え	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要となる。
		2 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が不要である。 ・小学校隣接地に移転できれば、相互交流が可能となる。 【デメリット】 ・小学校隣接地には建設できるスペースが少ないため移転できる可能性が低い。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 東金子地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
青少年活動センター	当面機能を維持するが、耐用年数に応じて施設の廃止を検討する。
学校給食センター	現地での建替えの他に公共施設跡地を活用して施設を移転して建設することも検討する。
総合クリーンセンター	機能を維持し、長寿命化を図る。
リサイクルプラザ	機能を維持し、長寿命化を図る。